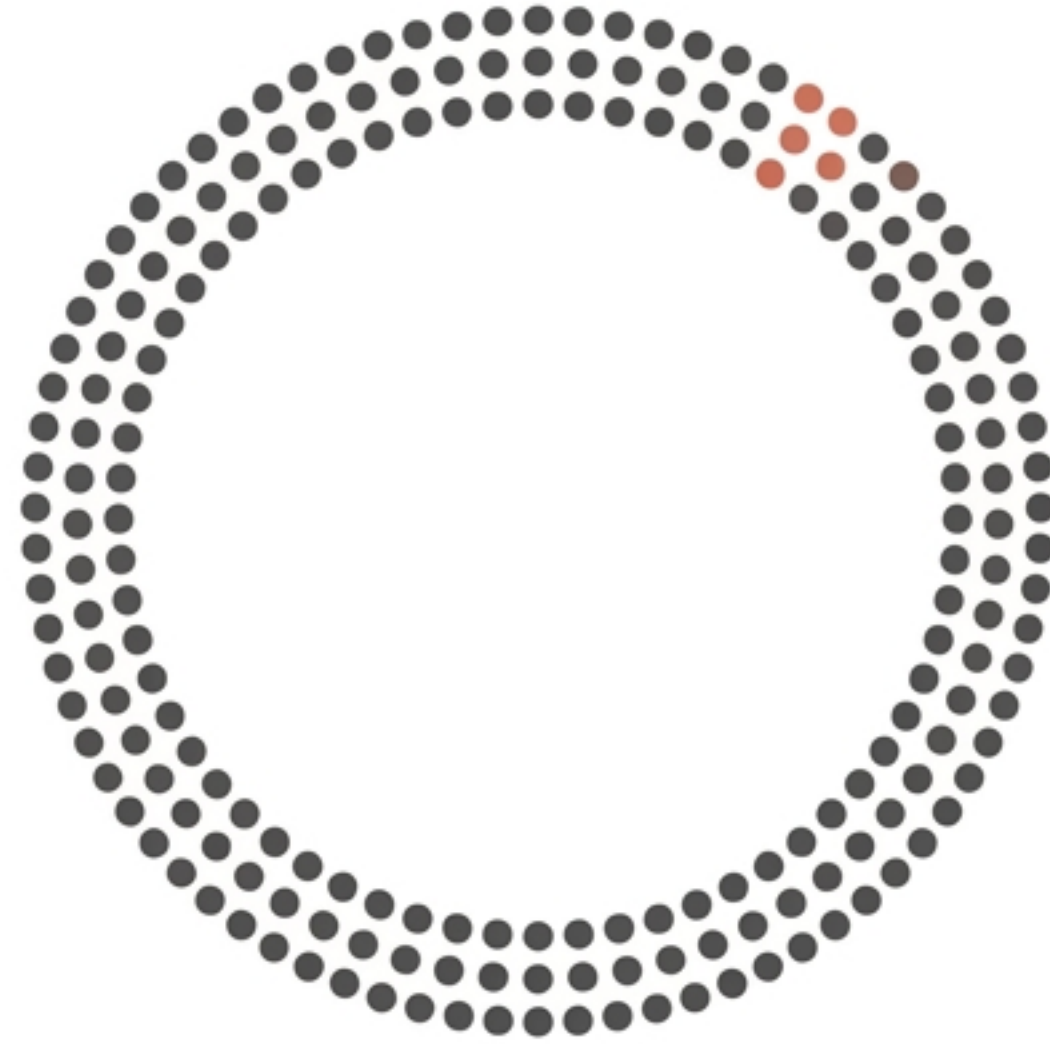




TAOISM

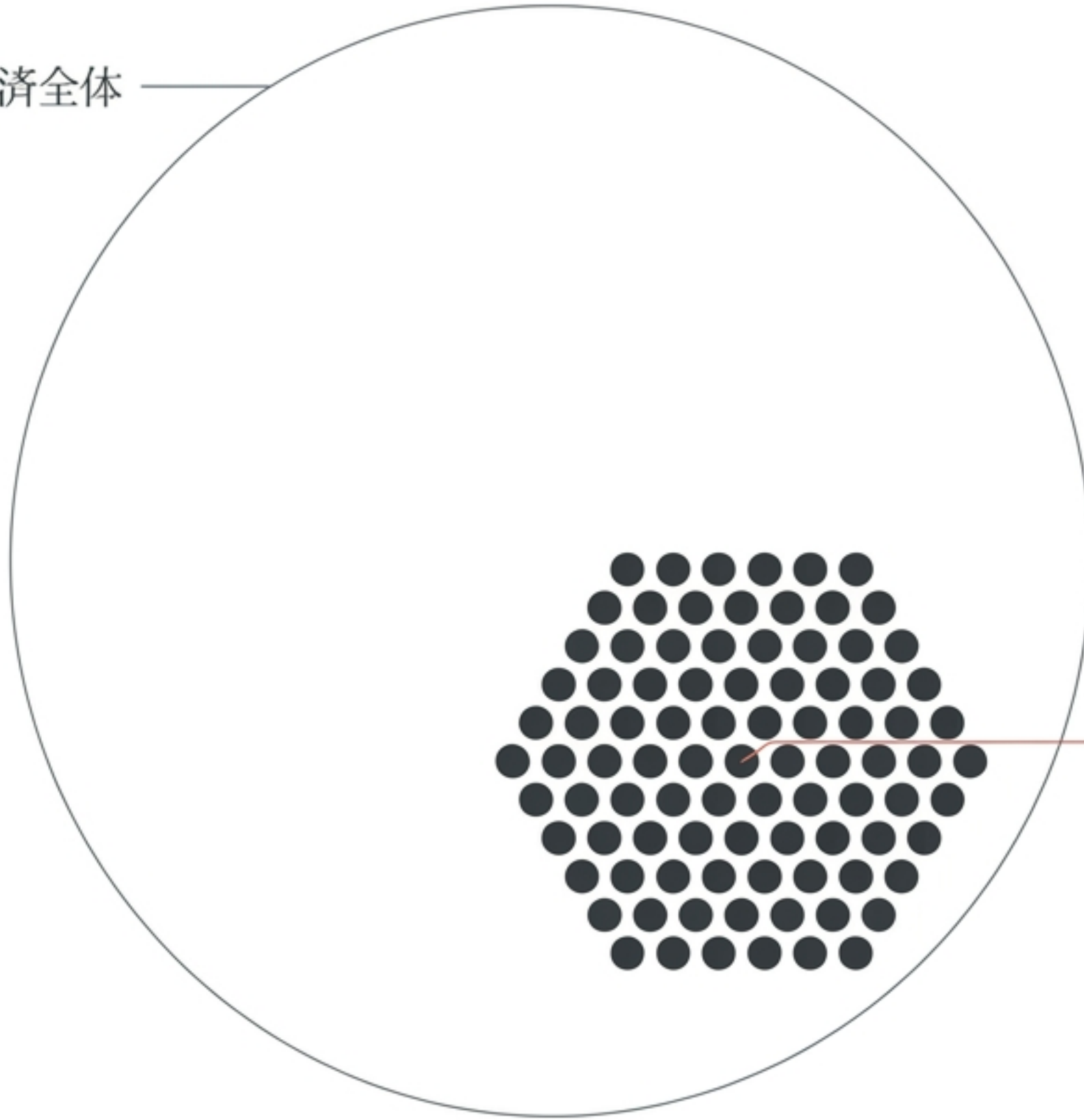
日経平均株価という「指標」とどう向き合うか

数字の裏側にある構造を観る

日経平均とは何か

日本経済全体ではない。時代とともに変化する、選ばれた225銘柄の集合体に過ぎない。

日本経済全体

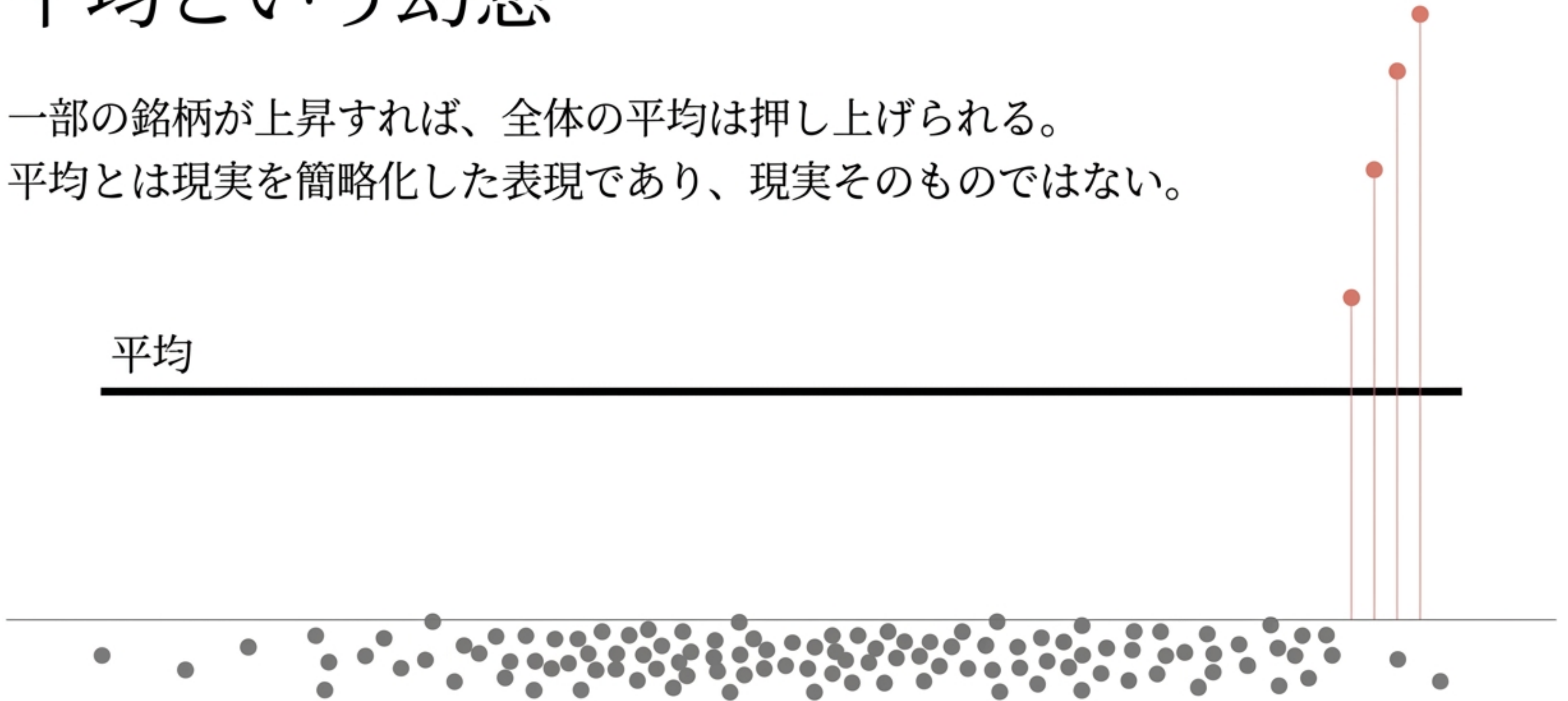


選ばれた225社

平均という幻想

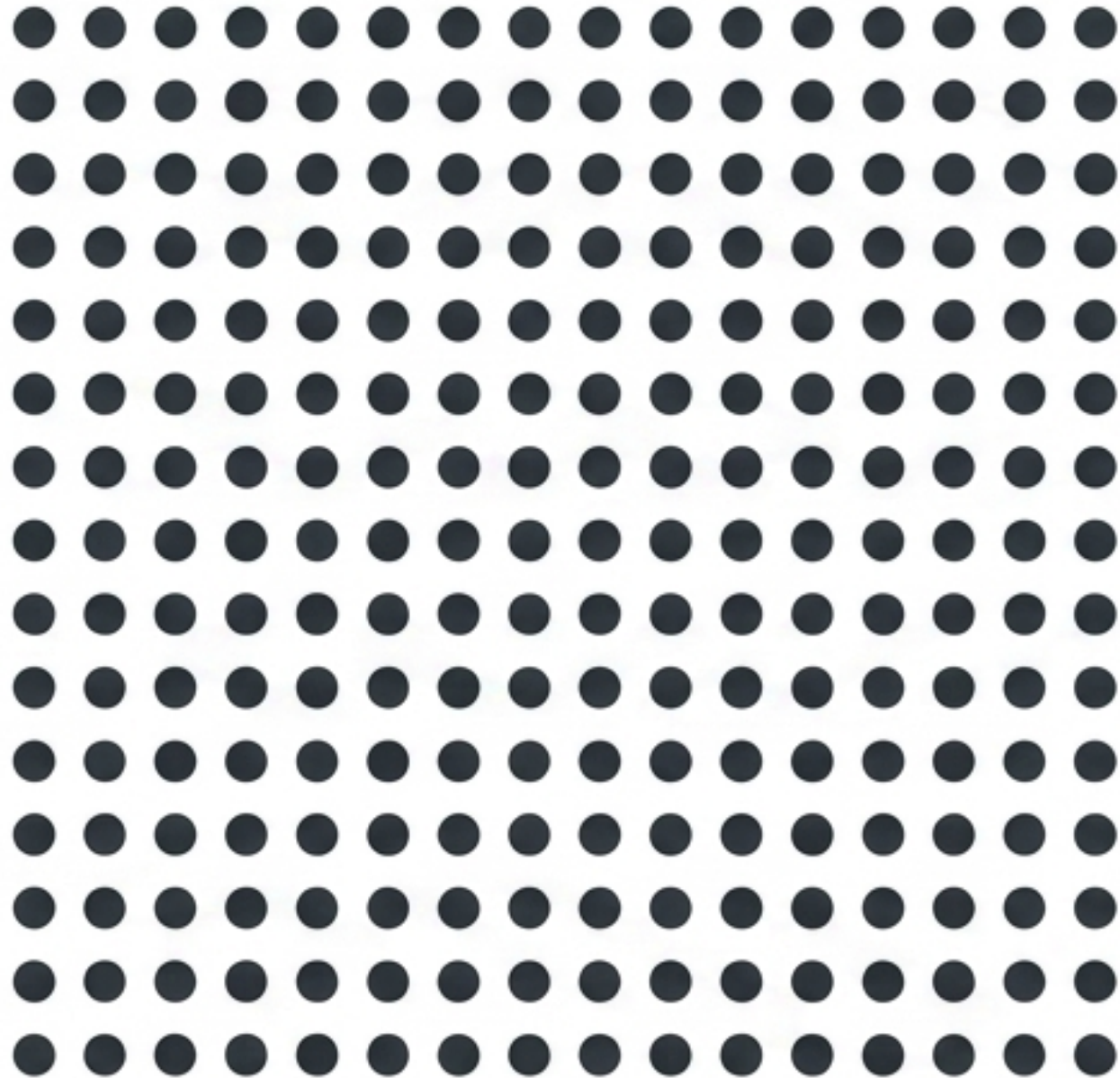
一部の銘柄が上昇すれば、全体の平均は押し上げられる。
平均とは現実を簡略化した表現であり、現実そのものではない。

平均

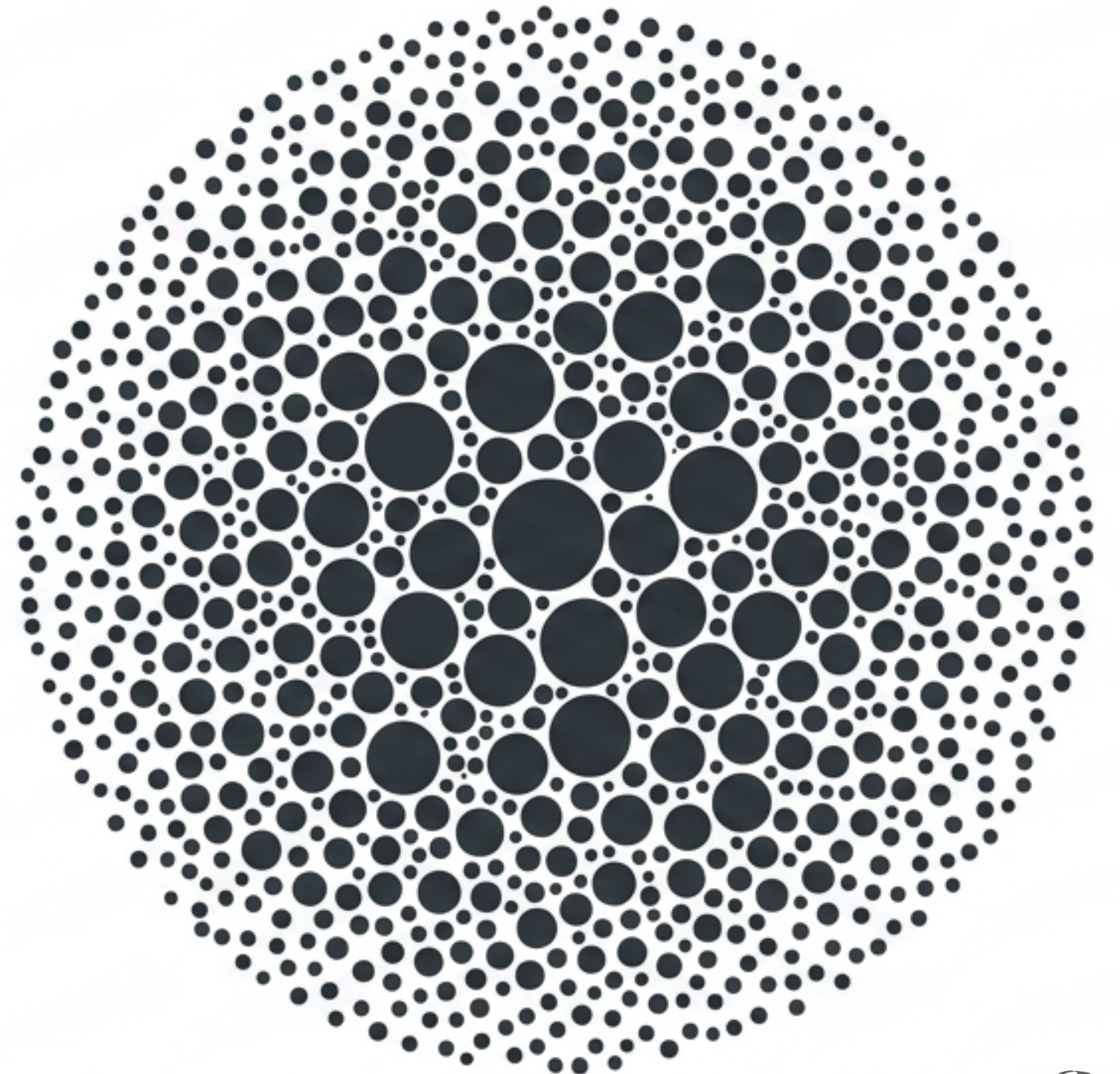


TOPIXというもう一つの視点

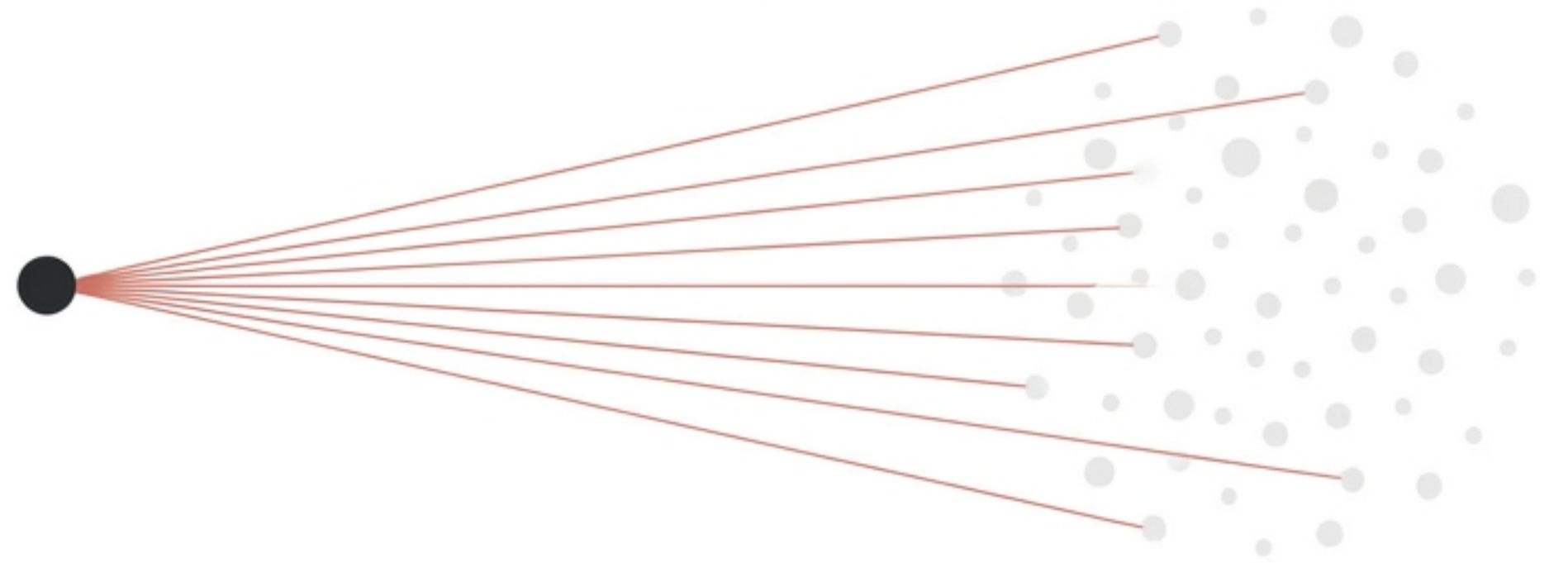
日経平均：選ばれた225社を見る



TOPIX：市場全体を見る



一を見て全を知る

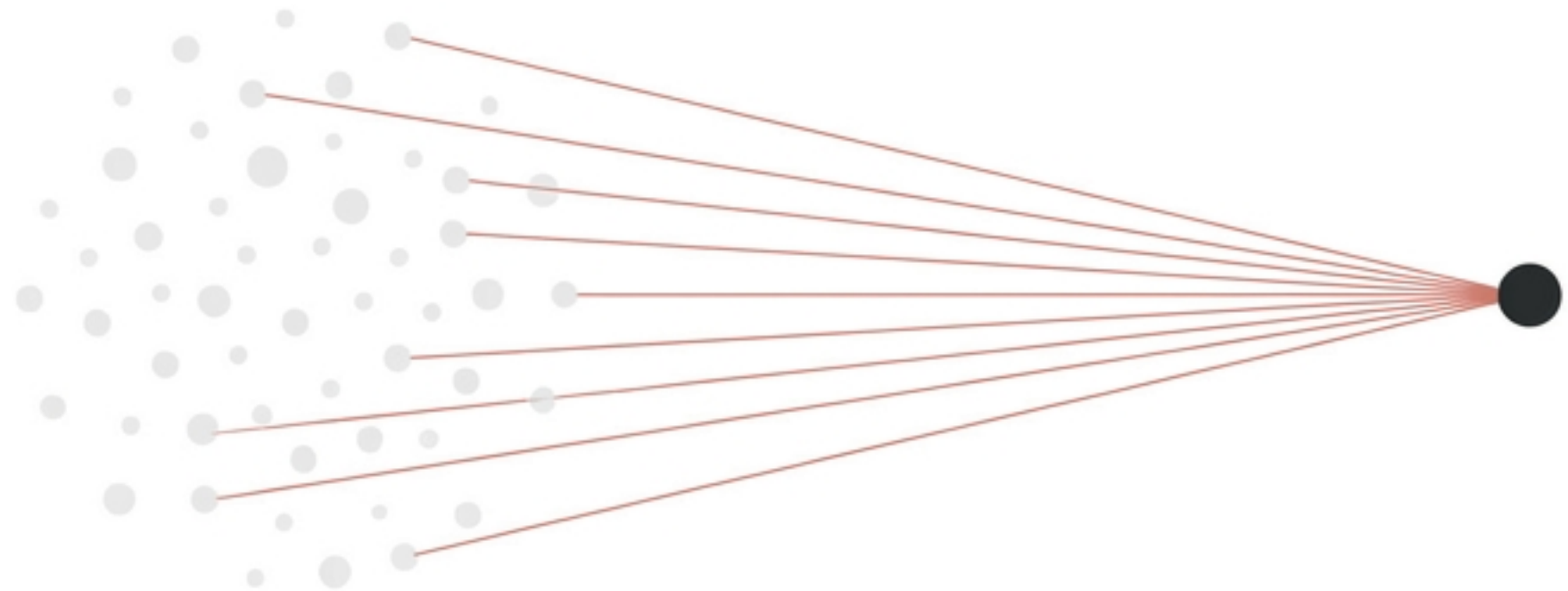


部分を見る。全体を見る。

どちらが正しいかではない。

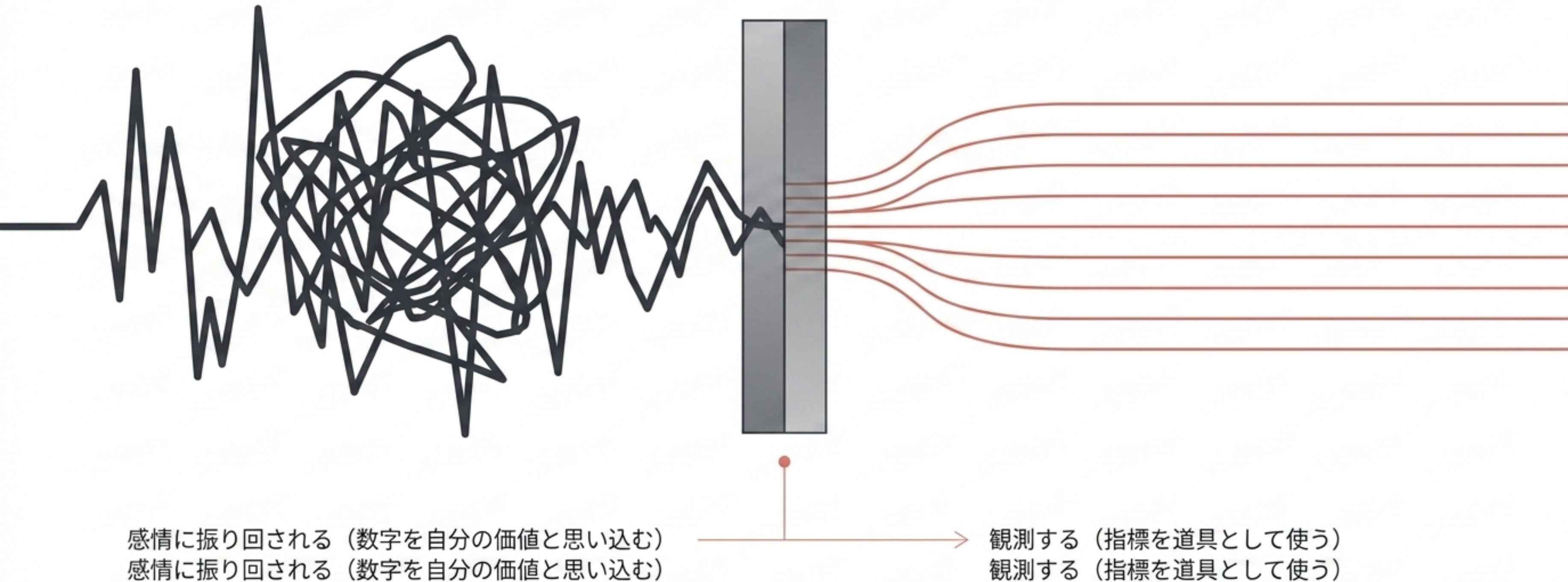
見ている角度が違うだけである。

どちらか一方だけでは、本質を見誤る。



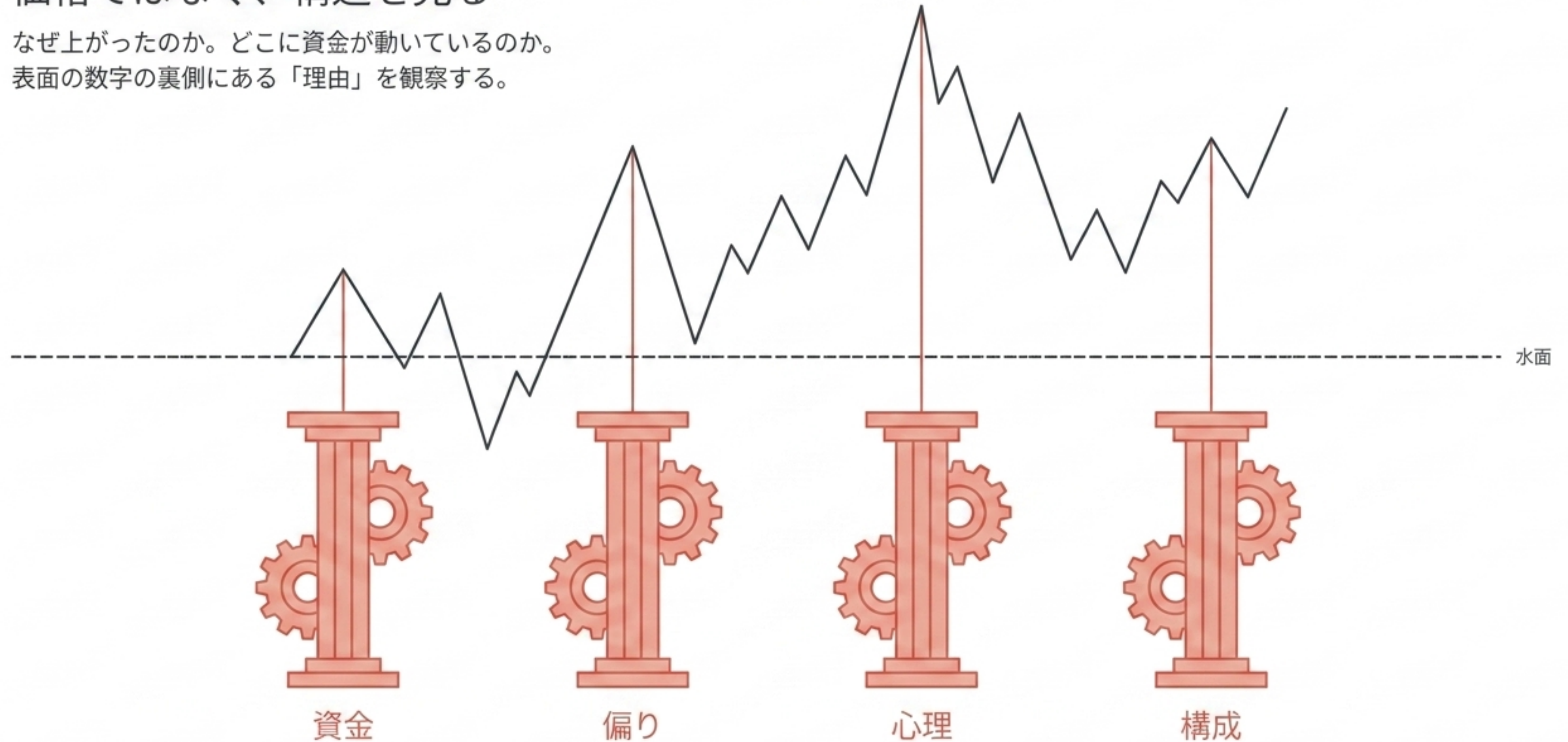
全を見て一を知る

指標との向き合い方

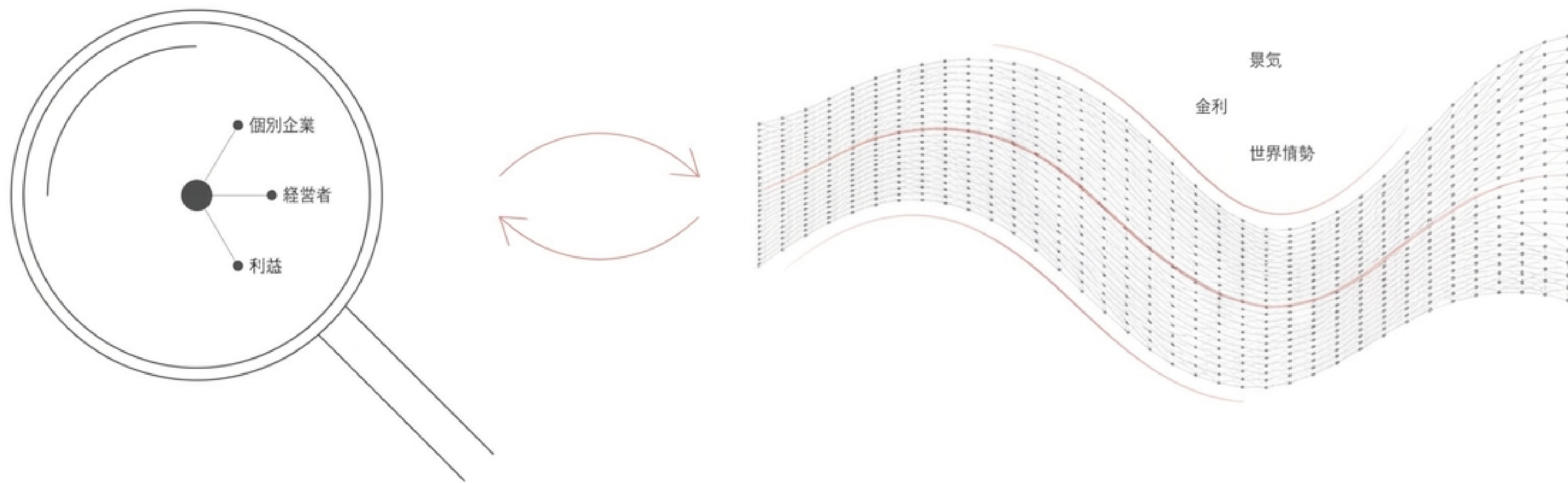


価格ではなく、構造を見る

なぜ上がったのか。どこに資金が動いているのか。
表面の数字の裏側にある「理由」を観察する。



ミクロとマクロの往復

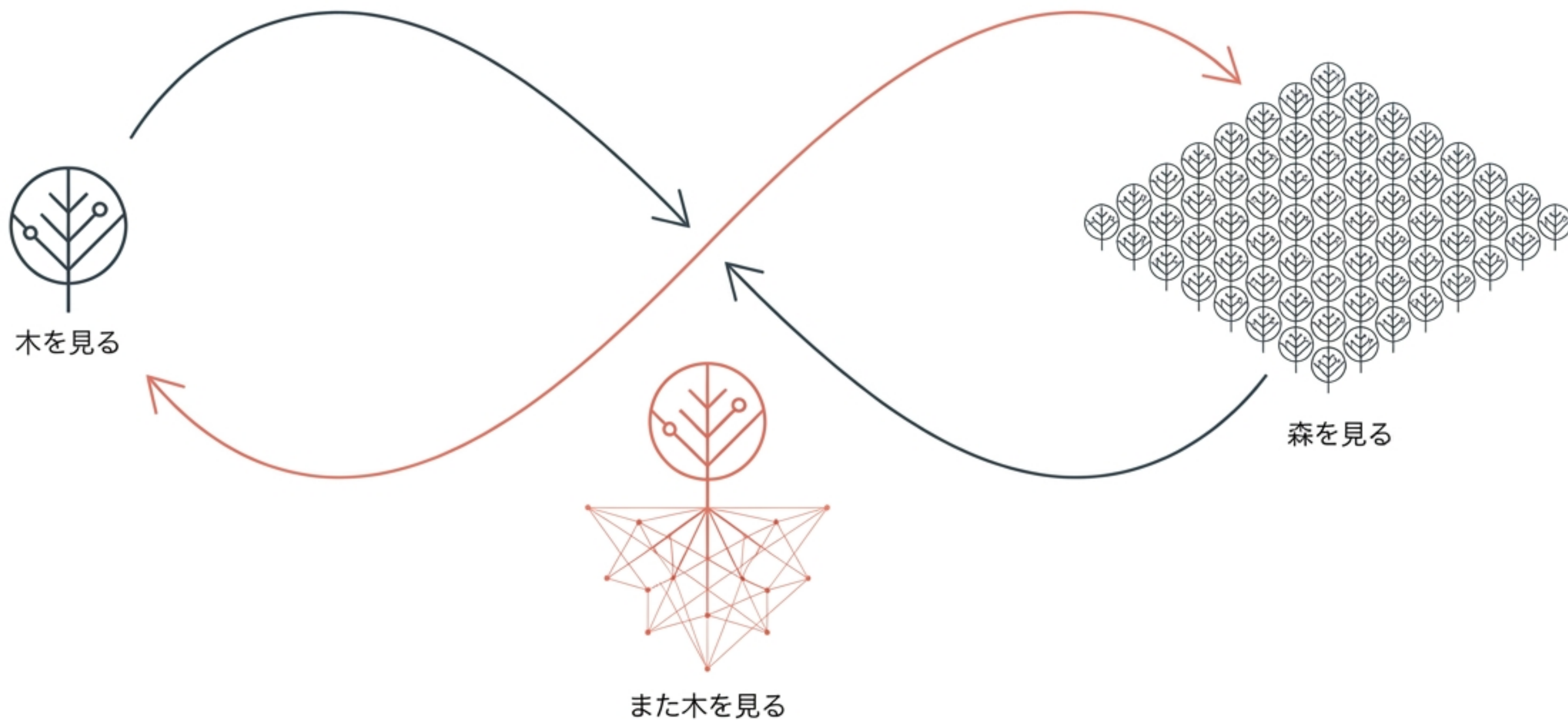


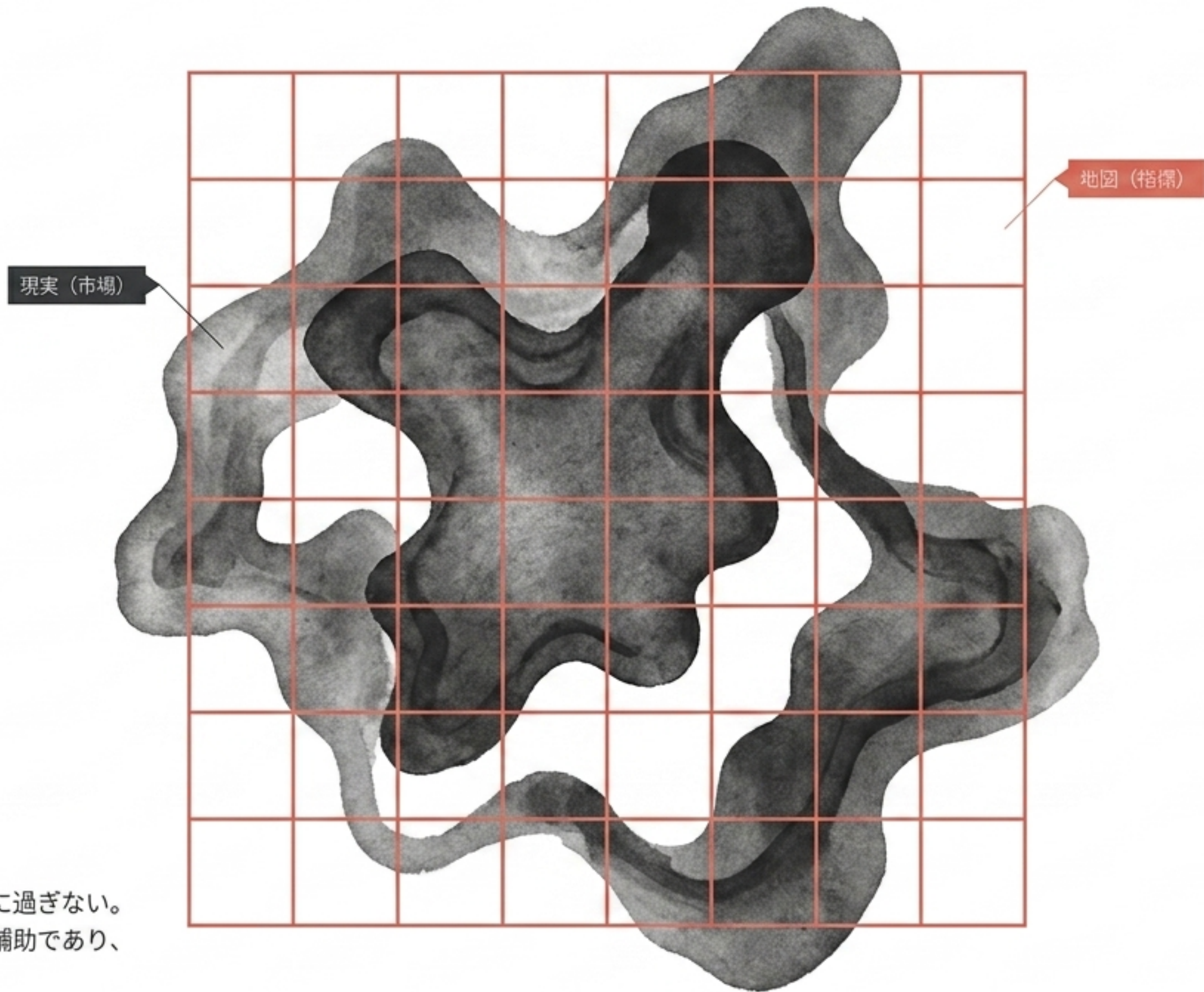
個別企業を見る視点。全体を見失う危険。

市場全体を見る視点。現実を見失う危険。

木を見て、森を見て、また木を見る

この往復と循環が、情報に振り回されず、本質を見る力を育てる。



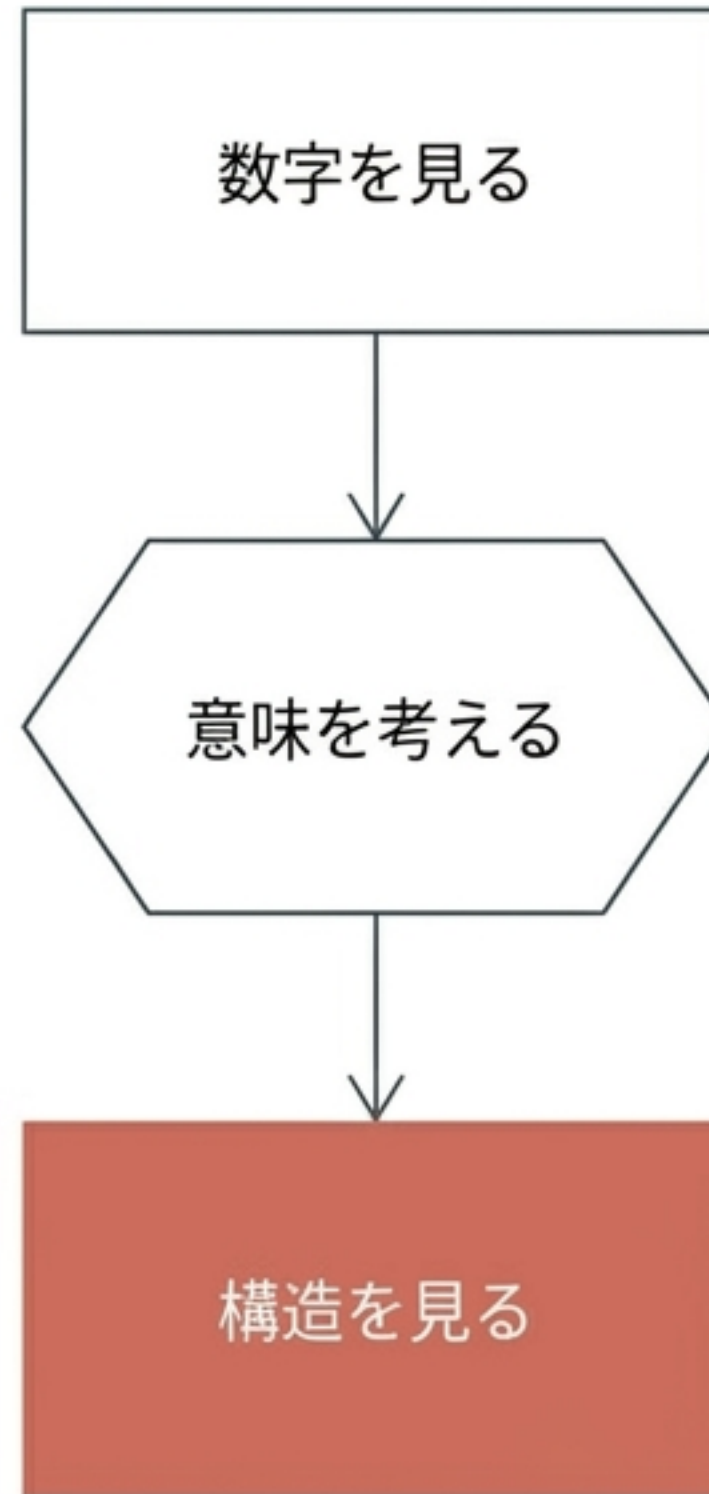


地図と現実

日経平均株価は、一つの地図に過ぎない。
地図は現実を理解するための補助であり、
現実そのものではない。

TAOISM的結論

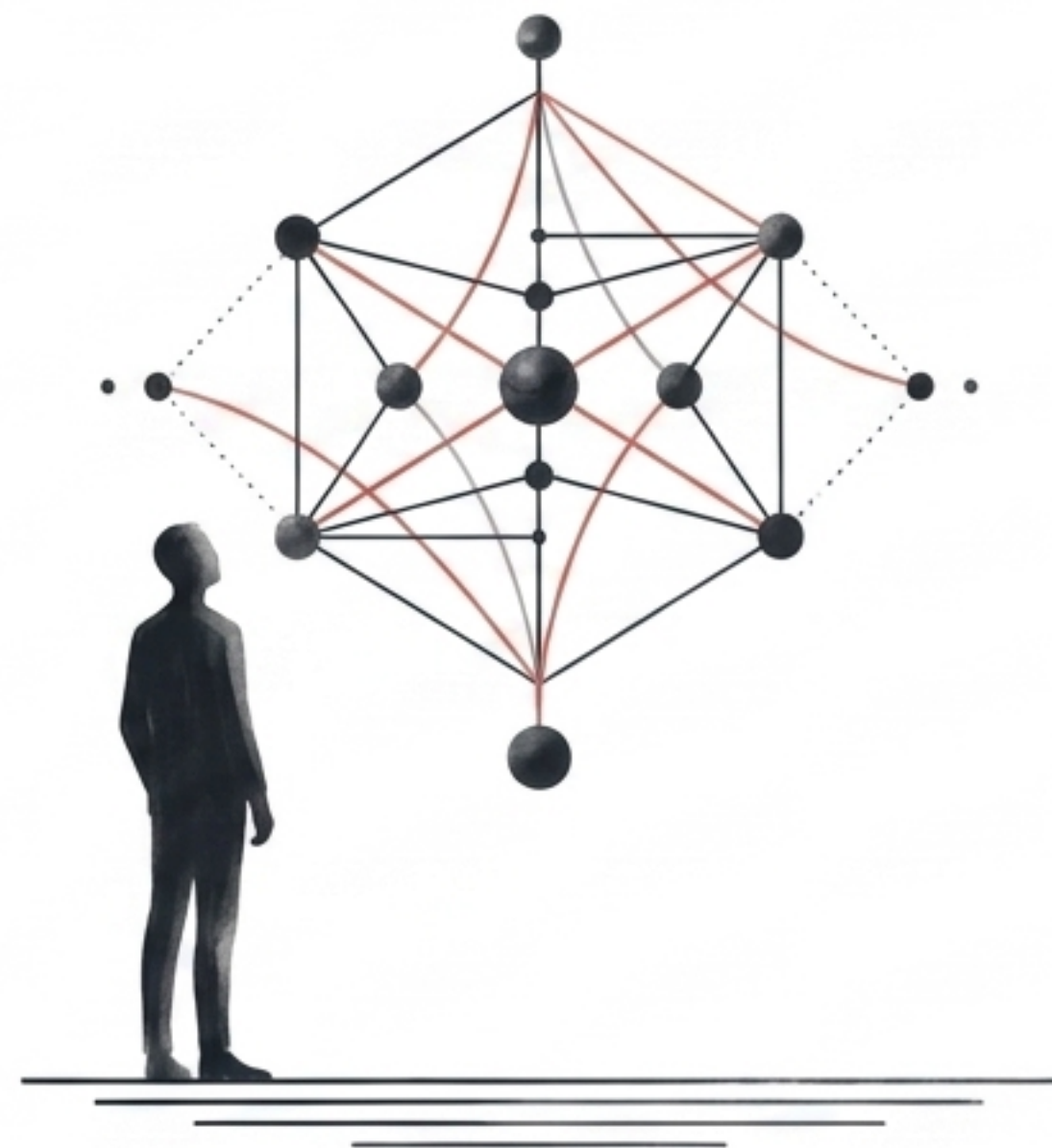
数字を盲信しない。否定もしない。
その裏側にある歪みを知り、構造を観る。



結び



数字に踊らされる側



数字を読み解く側

構造を観る目が見えた時、市場は恐れる対象から、観測し、活用し、学ぶ対象へと変わる。